

9番（山口良広君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきました山口良広です。私は今回の一般質問では農業問題と市民病院問題を取り上げたいと思っております。この後、私を皮切りに10の方が市民病院の問題を取り上げられます。そこで、私は市民一人一人に役立つ医療は何だろうという観点から、市民病院問題を検証したいと思いますので、よろしく申し上げます。

私は、この前の日曜日、母ちゃんと2人、「60歳のラブレター」という映画を見に行きました。3組の熟年カップルが出てきました。その中に日ごろの不摂生から糖尿病になり、毎日夕方、母ちゃんの「おー、二、おー、二」の応援で走る一組の夫婦が描かれています。どこにでもある夫婦です。それを温かく見守り応援する町医者が出てきました。ふとした奥さんの目の動きに疑問を持ち、近くにある総合病院での精密検査を勧めます。脳梗塞と診断され、すぐ手術と告げられました。でも、夫婦はどうするか悩んだのです。でも、最後はかかりつけお医者さんの「安心なさい。ここで大丈夫ですよ」と、そして手術が行われ、「目が覚めて、両方の手が動いたら大丈夫ですよ」となり、御主人は若いころ妻が好きだったビートルズナンバーのミッシェルを病室で一生懸命歌うのでした。

かかりつけのお医者さん、そして、近くにある緊急医療のできる総合病院、それが備わった武雄、それがもうすぐできるのです。武雄の中心部で鉄道高架事業が完成し、都市整備事業で生まれた町並みを歩いて武雄温泉駅におりた人たちが、御船山の懐に包まれた新緑に映える新武雄病院、帰りには武雄温泉に入って帰ろうかななどの声が聞こえそうです。どれだけ武雄市中心部の人たちに経済的貢献をしたのだろうかと思えば残念でなりません。

しかし、武雄から出ていったんじゃない、武雄の東部にすばらしい医療施設が、しかも、看護学校まで併設し、500人規模の雇用の場として新武雄病院が武雄市民病院からバトンタッチされてできるのです。今後は市民の皆さんとともに地域と新武雄病院が共存でき、ともに発展できるまちづくりのために、我々市議員は頑張っていかななくてはならないと思います。

しかし、残念なことに、この議会では病院問題が政争の具になされているように思われてならないのです。確かに私たち議員は政治家です。だから、政策で議論し合うことも大事でしょう。しかし、市民一人一人のことを思うとき、命は何よりも大事なのです。あのとき早く近くに緊急病院、しかも、24時間365日対応できる病院があったらいいなどの市民の声に市長は市政のかじをとったと思うのです。それも、市民からの血税の負担を少なくして済むようにとのことです。

昨年7月16日、武雄市民病院の民間移譲を権威あるこの本会議で決定したことは、皆さんも御存じのことと思います。その後、その執行に対して、市長の不信任ということになり、リコール運動がありました。そこで、市長は長い期間の市政の空白は市民に対して申しわけないということで、即辞職となり、その結果、市民からの再任で、市民は今の武雄市長に市

民病院の民間移譲の道を承認したと思うのです。

そんなとき、私は、こんな(現物を示す)「武雄市を明るくする市民の会ニュース」、2009年6月号を見たのです。6月議会で移譲先の変更を強行か。問題点は幾つかあります。その1つ、移譲先の変更で市民の命と健康は守れるのでしょうか。その2、移譲先選考委員会や市民公開プレゼンテーションは何だったのか。その3、社団法人巨樹の会とはどういう組織と内容なのかという問題点が出されております。

そこで、市長にお尋ねします。この3つの問題に対して、どういうふうな考えを持っているか、まず市長、御答弁をお願いします。

議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

まず、「武雄市を明るくする市民の会ニュース」、これは各病院であるとか、薬局であるとか、あるいは地区によっては戸別配付がなされていて、私の家には入っておりませんでしたけれども、そういうことでまかれているようなんですね。まず、この件に関して、ちょっといろいろ思いはありますけれども、政策的なことだけお答えをしたいと思います。

まず、問題点で掲げられておる移譲先の変更で市民の命と健康は守られるのでしょうか。イエスです。これについては池友会が全くの別法人になる、すなわちAからBになるということに関しては、それは問題があります。しかし、同じ池友会グループの中で、今度は池友会に巨樹の会が加わると、追加になっています。これについて、難しい言葉で言うと、重畳的債務の引き受けと言います。これは私たちと意見を異にする弁護士の先生も、それはそうだなということをおっしゃっておられますので、そういった意味での問題点はない。すなわち命と健康は実態上変わりませんので、むしろ追加になりますので、守られると、イエスであります。

これに関連しますけれども、その2、移譲先選考委員会や市民公開プレゼンテーションは何だったのかということに関して言うと、これがもし、池友会から全く別法人に変わるといった場合は、私は、移譲先の選考、これ1回解散をしておりますけれども、選考委員会を開く必要性はあったというふうに思っております。もう1つは、あわせて市民の公開プレゼンテーションもやっぱりやる必要があったというふうに思っています。しかし、先ほど申し上げたように、同じ卵の中で、殻の中で、それがAプラスBになるということに関して言うと、先ほどのその1の移譲先変更で市民の命と健康は守られるかと、守られるということでもありますので、これは私としては、いわゆる名義変更の一つだというふうに思っておりますので、これを開く必要はない。すなわち、これについては議会に広範な議論をしていただくのが筋だろうということから、私たちとしては庁内で議論をし、弁護士の先生であるとか、

あるいは総務省、厚生労働省、関係所管の省庁と密接に協議をした上で、議会にその判断をゆだねることが最適であると。とりわけ総務常任委員会にゆだねるのが最適であるということ判断して、議案として提出をした次第であります。

社団法人巨樹の会はどのような組織と内容なのかについては、担当部長から答えをいただきます。

議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

古賀市民病院事務長〔登壇〕

社団法人巨樹の会であります。下関市に本部を置いて、現在では下関リハビリセンター病院を運営されております。

なお、この巨樹の会につきましては、池友会と一体となってグループ企業として、池友会グループとして医療法人等の経営に当たっているというふうに認識をいたしております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

では、この「武雄市を明るくする市民の会のニュース」というものは、ある程度、こうまで心配しなくてもいいよと、もっと私たちは前向きに武雄市が、我々議員が進めている道で一生懸命頑張ればどういかなるよというような形で解釈していいですね。

次に、昨日18日の西日本新聞に大きく「武雄市民病院が先月5月の黒字を約300万円計上した」と大きく報道されておりました。私は大変うれしく思うのです。それは池友会の支援のもと、武雄市民病院スタッフの血のにじむような努力があってこそと思います。関係された皆さんに心から感謝し、お礼申し上げます。どうもありがとうございました。

さて、この黒字報道に対して、市長はどのように思われるかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も、ちょっと正確な話は、これ日曜日の西日本新聞で、ここまでの数字はわかりましたけれども、率直に申し上げたときに、こんなに早く黒字になるというのは夢にも思っていなかったですね。今まで赤字でのたうち回っていたわけですよ。開設以来、もう9年を超しているときにですね。私の記憶だと、あるいは私のレクチャーを受けた限りだと、一回も単月で黒字になっていないんですね。それが今度損益の計算で黒字になったということに関して申し上げます。私は先ほど山口良広議員がおっしゃったように、これは池友会並びに市民病院の看護師さんやコメディカルの皆さんを初めとするスタッフの努力の結果だというふうに思

っております。努力をすれば、結果がきちんと出るということだと思っています。この流れをもって、来年の2月1日の民間移譲につなげていく、これは本当に大きな意味を持つ出来事だというふうに思っておりますので、私も心から感謝をしたいというふうに思っております。本当にうれしく思っています。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私も、昨日、日曜日ですかね、この新聞が載っていたということを近くの人から見せてもらい、ああ、こんなに変わったんだということを見てびっくりしました。この努力というものにはありがたいと思います。

次に、ある議員の議会報告書として載っていたわけですけど、市民病院3億9,000万円で売却。残った精算金、借金12億円、市民1世帯当たり7万1,000円の負担とチラシに載っていたわけです。これに対して市長はどう思われているのか、また、この精算金に対し、どう対処していくのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私が手元にあるのは、共同通信武雄市議会だよりというのがあるんですね。これ共同通信がこんなこと出すのかと思って、こんな共同通信という言葉を使えるのかどうかというのも非常に疑義があるんですが、それはともあれ、もし、私が選挙前だったら、もう本当に私はずでたらめというふうに申し上げたと思います。しかし、私は今非常に残念であります。と申し上げますのも、私は市長であります。議会で、詳しくは申し上げませんが、大河内議員、吉原議員に、私は丁寧に答弁をしたつもりでいます。その答弁の重み、結果、これについては、私は最大の肯定力を行政としては持つというふうに思って、これが議会だというふうに思っております。

そういった意味で、その後に市民病院3億9,000万円で売却、残った精算金、借金12億円、市民1人当たり約7万1,000円負担ということに関して言うと、非常に私は残念、かつ悲しく思っています。さきの答弁で、なぜこれが市民負担を出さないのかということをお知らせしたつもりでいますので、もうあえて申し上げませんが、結果的に申し上げますと、市民負担は今のところほぼゼロになる見込みであります。

いずれにいたしましても、本当に私は政策論争はあっていいと思います。あっていいと思います。しかし、数字であるとか、あるいは市民の皆さんたちが本当に真摯に心配をされていることについて申し上げれば、それは正確な数字をきちんと引用をしてしかるべきだというふうに思っておりますので、あえてそういうふうに答弁をさせていただきたいと思っております。

〔5番「議事進行」〕

議長（杉原豊喜君）

議事進行ですか。5番大河内議員

5番（大河内 智君）

今、市長答弁の中で、吉原議員と私大河内の名前が出ました。何か共同通信の発行も出ました。共同通信の内容と、7万1,000円と、私個人の大河内とどのような因果関係があるのか、改めてお尋ねいたします。（発言する者あり）ですから、そういう個人の問題について、議長どのようにお考えなのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

ただいまの議事進行についてですけど、議長に対して議事進行上の質問を私にはしていただかにはならないと。今の発言について、もし私に取り計らいを言われるのであれば、議事録を後ほど精査してお答えしたいと思います。いいですか。

〔29番「議長、議事進行」〕

29番黒岩議員

29番（黒岩幸生君）

今、議長は、大体議長、ずっと流れて覚えてこれらおると思うんですよ。これ一番問題になったところですからね。私は今度一般質問構えておりますけれども。実は市長は確かに議事録で116ページですか、ゼロになると言われとつですよ。大河内議員のとき言われておる。精算金は12億幾らあって 12億がですね、「12億程度」と「12億」という言葉と、「12億9,000万」と3つ出ていますよね。しかし、そうしながらも、精算金の12億についてはゼロになりますと、大河内議員のときに答えておられます。その次の日に、吉原議員にも同じことを、ゼロになりますと答えておられますよ。皆さん議事録もろうとるわけでしょう。みんな。だから、自分のこと言うたらわかるはずですよ。そういう答弁、ここにあるとですよ。わざわざ精査する必要までもないと思いますけど。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

今の29番黒岩議員の議事進行についても、今、手元に議事録を持っておりませんので、後ほど精査をさせていただきたいと、御理解よろしくお願ひしたいと思ひます。

質問続けます。

〔30番「議事進行」〕

30番谷口議員

30番（谷口攝久君）

進行されるのは結構ですけども、今、大河内議員は自分の名前が出てきて、共同通信と関連の中でそういう発言があったけれども、適切じゃないと。そういうふうな発言を直接市

長がすることが果たして議会の進行上いいかどうかということで議事進行を求めているわけですから、休憩してでも精査をして、それから、その結果を出してから進行するのが適当じゃないかという気がしますけど、いかがでしょうかね。いい悪いの問題を私は言っているわけじゃないんですよ。議長の取り計らいを、いわゆる求めていらっしゃる議事進行ですから、そのほうが早く進むような気がしますけれども、いかがでしょうか。（「時間の無駄じゃないですか。市長は答弁でゼロと言ったんでしょ」「共同通信……」「共同通信は別の話」「それば一緒くたに言うとする」と呼ぶ者あり）

議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休	憩	14時7分
再	開	14時10分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

先ほどの議事進行についてでございますけれども、3月定例会におきまして大河内議員、吉原議員の質問に対して、精算金関係で市長がそういうことはない、負担はゼロになる見込みだということで、12億円ということも出た。それは、そういったことはないということをお答えした。先ほどもそれを答えられたと思います。

それと、この共同通信の中でも、またそれを答えた後に出しておられるということですね。先ほどの市長の答弁に対しては何ら問題は生じていないんじゃないかと思います。

質問を続けます。9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

この問題、精算金については、後日ほかの議員のほうから質問があるかと思しますので、後に回したいと思います。

平成20年7月16日、武雄市民病院は武雄市議会の議決を経て移譲先を医療法人財団池友会に決定し、決定に基づき全面的に協力を得て運営がなされているわけです。現在の市民病院の患者さんは、入院また通院含めて何人ぐらいおられるのか。それと同時に、先ほどは5月単月の黒字になったということが新聞報道に出たわけですけど、その収支あたりはどういうふうになっているかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

古賀市民病院事務長〔登壇〕

すみません。パネルで説明をさせていただきたいと思います。

（パネルを示す）まず、1日平均の入院患者数の19年4月から先月までの推移ということで、グラフにさせていただいております。19年4月から書いておるわけですけども、19年

度におきましては、ほぼ100人ですね、大体100人で推移をしております。それから、20年度に入りまして急激に入院患者は少なくなりまして、最低が20年7月の28.5人というふうになっております。その後、池友会からの協力をいただいて病院の運営をやってきたわけですが、右肩上がりになっているということで、先月は平均の入院患者数は117.1人ということになっておりまして、相当上昇をしてきたということになっております。

(パネルを示す)それから、救急車の台数の関係ですが、19年4月以降は大体60台程度で推移をしております。それから、20年になりまして4月以降はゼロに限りなく近くなったということですが、池友会の応援をいただいた8月以降急激に上がりまして、先月では1カ月で112台という救急車の受け入れ台数になっております。

そういったこともございまして、経営につきましては順調に進んできておりまして、先ほど市長からもございましたとおり、きのうの西日本新聞には5月で単月では黒字になったということで、299万円の黒字ということで載っております。

市民病院の経営につきましては、12年2月の開院以来、毎年赤字が続いてきたわけですが、単月で計算をするというのは、いろんなやり方があるわけですが、例えば、減価償却費、あるいは6月、12月期の賞与、こういったものをどういうふうに計算するかということになりますので、こういったものにつきましては、それぞれの月に案分して配分をするということで平準化をいたしまして5月度はどうだったのかという計算をしましたところ、5月についてはほぼ初めてということで約300万円の黒字になったということでございます。

以上です。

議長(杉原豊喜君)

古賀市民病院事務長、外来数、外来……。古賀市民病院事務長

古賀市民病院事務長(続)

申しわけございませんが、外来患者数につきましてはパネルは用意をいたしておりません。言葉で申し上げますと、先ほどの19年4月以降、20年4月までぐらいですけど、大体200人程度で1日推移をしておりました。その後、一番少ないときで72人ぐらいまで減っておりまして、現在では127人ぐらいまで回復をしているということでもあります。

それから、内科医につきましても今月から2人体制ということになりますので、今後、外来につきましても相当ふえてくるんじゃないかというふうに考えております。

以上です。

議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ちょっと外来患者数について私から補足をしたいと思います。

ちょっとやっぱり悩ましいところなんですね。外来患者さんがふえるということは、それ

だけ1次医療でお見えになるということがふえるとニアリーイコールですので、そうなってくると地元で一生懸命頑張られている開業医の皆さんたちの経営をやっぱり圧迫するというのがあるんですね。ですので、私としてはこれは厳しい選択なんですね。やはり私は地域医療というのは、開業医の皆さんあってこそだと思っんです。それに市民病院が後方支援病院として開業医を支え、重篤な患者さんを支え、24時間365日あるというのが理想的な私は経営形態だと思っており、それは池友会の蒲池さんであるとか鶴崎さんも十分それは認識しているんですね。ですので、少なくとも市民病院もっと外来をふやすべきだというお声は市民の方々からも多数実にはあります。あるんですが、少なくとも経営陣並びに私においては全体としてのその地域医療を考える立場から、私はこれぐらいでもうちょうどいいんではないかと、外来患者さんはですね。そういったことで、全体としての地域医療を図る観点から私は3つ数字を並べましたけれども、いい感じになってきているんだなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私も冒頭ちょっと恥ずかしいような「60歳のラブレター」というようなことを引用したわけですけど、この中で私が言いたかったのは、地元の開業医さんとしっかりした総合救急ができる病院が一体となってこそ武雄の医療だということを訴えたかったので、ああいうふうな映画の引用というものを使ったわけです。くしくも市長と同じようなことを聞いたということは、同じような考えを持ってやりよらすなということを感じたわけでありがたく思います。

次に、市長にお尋ねします。

もし、武雄市民病院が何の改革もしないでいたら、今どんな状態になっていると思われませんか。どう想像されますでしょうか。また経営的にはどんなシミュレーションを描かれるのか、もしそういう考えがあったらお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私が市長に着任をしてきて、最も大きな、多分私が民意で何期かさせていただくに当たって、恐らく自分がやめたときに一番大きな課題、問題は、この市民病院の改革問題だったというふうになるというふうに思って、もう今から思っております。その中で、もし我々が議会の議決をいただいて、これは特に黒岩特別委員長に頑張っていたいただきましたけれども、もしあの厳しい選択がなかったときを考えたときに、私はこのような事態を予想しております。

1つは銚子の市立総合病院の例であります。どうなったでしょうか。お医者さんが減って



患者さんが栃木県に行ったり、群馬県に行ったり、あれはNHKを初め、いろんなテレビで出ていますよね。ですので、病院の崩壊が地域コミュニティーの崩壊に　こころ、二年はならなかったのかもしれませんが、ほかの公立病院の様子を見ていると、よくなるどころか全国的に見ると悪くなっている方向にこうなっているというふうに思っています。これは多くの国民の皆さんたちと認識は同じだというふうに思っております。

先日、岡山に行ったときに、本当に武雄はよかったねと言われました。なぜか。しっかりとした病院が引き継ぐことになる。そういて、それも、しかも経営的に安定持続的になるといったことからすると、まず命、健康の問題として本当によかったというふうに思っています。ただ多少の問題、課題はあります。ありますが、それは解決させるように前向きに努力していくことが議会並びに私たちに与えられた責務だというふうに思っています。

それともう1つ問題があります。本当によかったなと思うのは、私のところに手紙やメール、電話がやっぱり来ます。それはなぜかという、あと5分遅かったら重い障がいが残っていたかもしれない、あるいは命を落としていたかもしれない。こういった方々がもう六十数名以上、市民病院で助かっているわけですね。その声をやっぱり聞いたときに、私はリコールという理不尽なことを受けました。しかし、私はあのときにやめて民意にゆだねて本当によかったと思っております。今その流れがあるからこそ、その人たちが助かっている、私はそのように認識をしております。もちろん病院には経営も大事ですけども、それ以上に大切なのはお一人お一人の市民の皆様たちの命であります。それを救えることができた、あるいは救う可能性が非常に高くなっている。そういったことに関して私は市民病院の皆さん、そして池友会の皆さん、そしてそれを今支えていただいている議会の多くの皆さんたちに深く感謝をしたいというふうに思っております。

最後に、答弁にしますけれども、もしあのときに　私は提案権しかありません。議会がああときに厳しいつらい選択をもししていただけなかったら、私はどうなっていたんだろう。それを想像するだに怖い気がしますし、もし市民病院が経営的にショートした場合は、今議員御案内のとおり総務省の連結決算があります。連結決算で母屋である我々の一般会計まで響く可能性が極めて高かったわけですね。そういった意味でいうと、離れが倒れて母屋まで倒れていくということになると、私はそういった意味から行政の運営からしても、あのときに決断した、議会に決断をしていただいたというのは本当にありがたく思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私もこの問題を質問するに当たり、私なりに一生懸命勉強しました。そんな中で、岩手県

の県立病院では県立病院の何カ所かが入院患者を、入院システムをストップしないとどうにもならないというふうなことをパソコンで見たわけです。そんな中で、岩手の知事さんはその地域に行って土下座して、その町民なり市民の方に謝っておられました。そのうちに何かどうかするよということを書いていたわけです。そんなことが我々武雄ではなかっただけでも安心だなということをつくづく思います。

次に、5月26日付で武雄市民病院の移譲先に関する申し入れがあったわけですが、それはどんなことなのか。池友会は平成20年度に始まった新しい制度である社会医療法人を目指しているとのこと。社会医療法人は税制上非課税となることから、固定資産税、法人税が無税となり、武雄市のまちおこしの点でも不利益になるということを書かれていますが、その点、どういうことでどんなことが、わかったらお知らせしてもらいたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

非常にこう簡略化して申し上げますと、今般、池友会、今市民病院の経営をしていただいているその池友会が、改正医療法の関係で新たにできる社会医療法人ということを目指そうとされており。社会医療法人の主な中身は、救急医療、僻地医療をしっかりやる病院だということで、これはいわゆる公的な機関になるわけですね。その最大のメリットは、税金を払わなくて済むということであり。固定資産税、事業税ですかね、を払わなくて済むと。おい、ちょっと待てよと、それは池友会にとってはメリットかもしれないが、我々にとっては税収がないということになると、それを期待しておったわけですね。もちろんその医療というのは大事ですけども、医療に加えてその税収、これはいろんな試算にもよりますけれども、やはり5,000万円前後で毎年来るわけですよ。毎年5,000万円。10年間でもし5,000万円だとすると5億円です。これが市の財政、お財布に入ってくるわけですね。そういうことを回避するために、避けるために池友会の中にある巨樹の会が引き受けるということ、それだけでは足りなくて、その巨樹の会が引き受けた後もこの池友会が例えば、人的であるとか、さまざまな面でバックアップするということをおい、5月26日付でいただいたというふうに理解をしており、議案を提出させていただきました。

先ほどの武雄を明るくする会でしたっけ、市民の会ニュース。6月議会で移譲先の変更を強行かとありましたけれども、これは何ら強行ではありません。申し入れがあって、それを踏まえて、やはり早く民意に問いたいということで議会に上程をしている次第でありますので、私どもといたしましては必要な手続を十分にとっているというふうに認識をしております。さらに加えてよくある批判が、そい、やったら最初っから巨樹の会にしとけばよかったらうもんと、しかし、それは歴史家だけが言える話なんですね。というのも、この移譲を

考えていたときに社会医療法人という制度は知っていました。私も公益法人改革を総務省のときにやっておりましたので、知っていましたけど、まさか非課税になるというのは夢にも思っていなかったわけですね。そういった意味からすると、これは法律上の言葉で言うと時点修正であります。もともと池友会になっていたのを、先ほど社会医療法人という制度が後からやってきた。その社会医療法人の、我々としてはその税収が入ってこなくなるということ为了避免のために巨樹の会にしていくということからして、私たちとしては本当に必要十分な措置をちゃんとしているというふうに認識をしております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

9 番山口良広議員

9 番（山口良広君）〔登壇〕

今の武雄のほうに固定資産税、法人税が入るということですね。また、500人規模の雇用と想定されておりますが、それまで含めて住民税まで含めたら武雄市としてはどれぐらいの税収を見込まれるのか試算しておられるか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

固定資産税、法人市民税合わせて年間9,000万円と試算をしております。恐らく9,000万円前後で入ってくるというふうに認識をしております。ただ、これ（「住民税まで含んで」と呼ぶ者あり）住民税まで含んで。固定資産税、法人市民税、住民市民税ですよね、を含めて9,000万円というふうに理解をしております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

9 番山口良広議員

9 番（山口良広君）〔登壇〕

今武雄市の税収が9,000万円ほど見込まれるということと言われたわけです。それとまた、もし市民病院が民間移譲をされずになったら相当なる幾らかの赤字も補償金も出るかなと思っているわけです。それが完成したら1億円以上の金が、数字が上がってくるから、これを子育て支援に全部入れたら楽しい子育て支援ができるなということで考えたわけですけど、いざ聞き合わせをしたら交付税が減るから余りそういうふうなほかの事業に回せるものはないというふうなことを聞いたわけです。ぜひ、これで出た資金というものを子育て支援に回して、武雄はよかね。医療も充実しているし、子育て支援もできている。住むならやっぱり武雄ばいと言われるような支援のまちができることを期待します。

次に、かかりつけ医として開業医さんとの関係、今からこの病院問題は開業医さんとの関

係をどう取りまとめしていくか大事な問題と思っています。その点どういうふうに持っていくつもりかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私から2点お答えをいたします。

まず、私が市長選の結果を受けて3者協を呼びかけました。これについては、医師会のほうからさまざまな条件が突きつけられまして、これについては今誠実に事務方同士、私どもの事務方、そして医師会のトップではなくて事務セクションの方々と今断続的に協議をしています。

私が思うに、いろんな報告を受けますけれども、もうそうやって顔を合わせていること自体が一つその協力、行政とこの場合は医師会ですけれども、協力の場になっていると、意思確認の場になっていると。古賀医師会長さんもわざわざ私のところにお見えになるようにもなりました。新型インフルエンザの対策であるとか、あるいは地域医療に関して私のところにも本来なら私が行かなきゃいけないところですが、お越しいただいて、さまざまな今意見交換をさせていただいています。そういった意味で去年とはえらいもう違いかなというふうにも思っておりますので、そういった意味で医師会の皆さんたちには心から感謝をしたいというふうに思っております。

そして、2点目であります。

2点目は、特にゴールデンウィークのとき市民病院は物すごくふえたわけですね。それはお医者さんから紹介という形で市民病院にいっぱい来られたみたいです。別にゴールデンウィークに限らず、医師会、開業医の皆様方から逆紹介、今比率もふえつつあります。そういった意味で、今度はその開業医の皆様方と池友会の連携が、実際患者さんを中心としての交流ができつつありますので、これもひとつ本当にいい方向になってきているんだなというふうに思っています。そういった意味で、医師会、池友会、そして行政は三位一体、表裏一体、一心同体でなければいけないというふうに思っておりますので、そういった意味から医師会の皆様方の意見にもきちんと耳を傾けながら行政に反映をさせていくということが私に求められていることだと。それをきちんと行うことによって、市民の皆様方が御安心していただけるのではないかなというふうに認識をしております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ医師会との開業医の皆さんとの仲を大事にしてもらい、我々市民がかかりつけ医と生

の声を聞きながら、治療や予防医療ができ、どうか問題になったときには新しい病院のほうで、市民病院のほうで治療ができるというふうな体制をつくるためにぜひ頑張ってください。次の問題に移ります。

建設先が武雄東部に決定したと報道されていますが、新武雄病院はどんな病院になるのか、またこの施設を核にして医療福祉のまち武雄を目指すと言われていますが、この点どのような医療福祉のまち武雄を目指すのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私はこのように思っております。新たな武雄市民病院を引き継ぐ、新武雄病院（仮称）になるかと思いますが、この病院を中核といたしまして議員から質問がござっております。看護寮であるとか、あるいは看護学校、もう一つ言うとりハビリテーションの小さなクリニックもつくりたいということ。そして、私が仄聞するに、なかなか武雄ではニーズはあるけれども、できていない診療科目もどうもあるようです。そういったことでぜひ地元の医師会の皆様、そして池友会と協力をして、そういうクリニックもつくりたいというのは、北九州、福岡市から私の耳にも間接的、直接的にも入っております。そういった意味で、恐らく東部開発地区は医療を中心とするエリアになると思います。安全・安心、健康、命を中心とするエリアになる。今の和白病院がそうですけれども、一たんそうなってくるとそこにスーパーであるとか、あるいはマンションであるとか、ホテルであるとかさまざまな機能がそこに付設していくことになります。

そういった意味からして、私はこの前、読売新聞の全国フォーラムで申し上げましたけれども、これから武雄は医療福祉を中心とするまちにしたい。私は余り横文字は好きじゃありませんけれども、例えて言うとメディカル・リンク・タウンというふうに申し上げました。医療を中心として、例えば、検査であるとか、スーパーPETの検査であるとか、あるいはそこに来てももちろん治すことも大事、そして事後処理も大事、そして、そこに観光 武雄市は世界に誇る温泉があります。きのう森山直太郎さんも入られました。温泉があります。そして、おいしい食べ物も供給していただける農業があります。そして、見事な風景景観があります。

そういった意味からして、医療が産業としてほかの産業に波及をしていく、すなわちその産業にある方の所得額は上がっていくということ、そういったことを目指す絶好の今チャンスだというふうに思っています。これが今できているところが、私が知る限り日本ではないんですね。こういう地方都市で、小さな地方都市で、こういう医療を中心とするようなまちづくりができると、だから私は小さな都市の大きな挑戦だというふうに思っております。そういった意味で議員各位もいろんなさまざまなお考えがあろうかと思っておりますけれども、市民

医療の維持向上については、これだけは目指す先は一緒だと思っておりますので、ぜひ御理解、御協力をお願いしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

我々議員は弁護士でも司法書士でもないのです。あくまでも武雄市議会議員なのです。法律や条例に従って、この議会の議決を得て市長は市の職員と一丸となり、武雄市民の安心・安全、快適で豊かな生活を持てる武雄市民生活を求めて頑張っていると思います。今後は武雄市民病院からバトンタッチされる武雄東部にできる新武雄病院、隣接の看護学校の500名程度のスタッフと総事業費50億円と言われる投資、これにどう雇用の場として、また武雄市内の業者の皆さんがどうかかわっていき所得増大につながるか。もう時は動いています。私は今後も市民の皆さんとともに、元気な武雄の建設のために議員生活を続けて市民医療福祉に貢献することを決意し、市民医療問題を終わりにします。

次に、農業問題です。

イノシシがふえて被害が拡大するばかりです。対策が急がれている今、武雄市は、いのしし課まで設置し、頑張っておられます。いのしし課の設置の意義と、いのしし課の活動状況はどうなっているのか、また緊急雇用創出基金事業でのイノシシ隊の活動はどうかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

イノシシの被害につきましては、昨年の9月ぐらいですか、問題になりまして、10月にはいのしし会議というのを発足しております。これについては、区長さん、それから営農団体、JA、県、そこら辺で、いのしし会議を3回ほどしまして、何とか対策をしようということで今現在やっておりますが、4月から、いのしし課を専属につくりまして職員は2名体制ですが、いろんな市民からの要望等が上がっております。

そういうことで、ちょうど4月から国の緊急雇用の対策、これは全額の補助ですが、それを利用してパトロール隊を編成して、今活動をやらせているということで、まだ発足したばかりでございますので、これについてはいろんな意見を聞いて、よりよい方向で被害の少ないような形でやっていきたいということで考えます。

それから、もう1つは、2月でしたか、山内町のほうにイノシシの加工センターができておりますので、これについても、ちょうどことは4月、5月が一斉捕獲ということで、午前中申し上げましたが、4月、5月で148頭のイノシシが捕獲をされております。そのうち82頭が解体をされて食肉になっているということでございますので、これについては今か

ら商品の開発、あるいは販売促進に貢献をしていきたいというふうに考えます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今イノシシが先ほどの小柳議員の質問の中で、相当数が捕獲されているということを聞いたわけです。そんな中で4月からのイノシシ加工所で82頭が加工されて食肉としての売り先が、販売が進む可能性があるわけです。ぜひこのイノシシというものをとってもらい、また減らしてもらわないと山つきの農業地帯というものはどうにもならないというのが現状です。それをよろしくお願いしたいと思います。

それと同時に、今私たちの地域でも一緒、どこでも一緒と思いますけど、箱わなやワイヤーわなでイノシシを捕獲するわけですけど、どうしても捕獲するまでは簡単ですけど、それを殺傷して処分するというものが一番の問題になるわけです。その点が今個々の猟友会の皆さんで行われていると思っていますけど、現在その点に対して、どうか対策をしてくれとか、いろんなそんな意見というものはないかどうかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

先ほど山内町のほうで加工されていることを紹介しましたが、せっかくですからここに写真がございますので、（写真を示す）これがですね、イノシシ肉を加工した、ちょうどポタンのような形をした肉です。こういうのが今山内町のほうで販売をされておるとい状況です。

それから、猟友会のほうからの相談事でございますけれども、議員言われましたように、箱わな等にかかるのはいいわけですが、その後の処理ですね。例えば、とめさしをするとか、それから埋設ですか、そこら辺に相当の労力が要るといことでございますので、これらについては今後、いのしし課もできておりますので、猟友会、あるいはそういう関係者と協議をして今後いい方向に持っていきたいというふうに考えます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今貴重な写真を見せてもらいました。私もこの前ある学生の仲間とバーベキューを、このイノシシを持ち込みまして、買ってきて、そこで処理したわけです。東京から来た学生さんたちでしたけど、もう、もりもり食べて焼くのが追いつかないようにできました。しかし、買っていったのを、「こい、どがんとなっばい」と、どさっと入れて焼いてしたわけです。「芯まで焼かすか」と言われて、「よかよか。今食うないばダイエット食」と言うた。

「生はダイエット食」と、「うまかとは腹になるばっかい」と言うたごとして、にぎおうて食べたわけです。ぜひ皆さんもいろんな機会でのこのイノシシ肉というものが武雄でやられていますので、いろんな区会でバーベキューでもして食べてもらえればありがたいと思っております。

そんな中で、このイノシシ加工の中で100%が食肉にならないと思っています。その残品というものはどういうふうな処理をされているのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

先ほどイノシシの加工センターほうでは、肉になる分については商品として売るわけですが、解体後の骨とか、特に内臓、そこら辺については長崎県のほうに肥料会社がございますので、そっちのほうに一括して持っていっております。ただ、骨については、例えば、ラーメンに使うとか、そういう研究も今市内の方がされている状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今イノシシの加工所で出ました処理の肉にならない分は長崎の飼料会社に持ち込まれるということを聞いたわけです。以前、私は古庄市長時代に、朝日町の繁昌にある杵藤クリーンセンター内にある動物死骸処理センターでも焼却をしてもらうことはできないだろうかということをここで聞いたこともあります。地元の方とその後話し合いが行われたかどうかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

この件については、うちの庁内の環境課のほうとも協議をしておりますが、どちらにしてもクリーンセンターのほうではその処理の能力がないということで、地元と協議する以前にそういう問題があって、今のところはできていないということでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、焼却もできない。そしたら、今のところイノシシというものは先ほど言われたように、殺傷してそのことの処理が一番の問題であるということが言われております。そんな中で大きなものになりますと、80センチ真四角ぐらいの深さを最低60センチ、できれば80センチぐらい掘って埋めなくてはならないのです。時間的、またその場所においてはそういうふうな



場所も確保できずに、それなりに処分されているというのも現状ではないかということを経々聞くわけです。

そしたら、今インフルエンザとかいろんな病気というものが自然界には発生するわけです。そんなことを心配したときに武雄は畜産が一生懸命行われております。そんな中で、養豚、養鶏、肥育とさまざまな畜産物が出ていますので、それらへの病気の心配も危惧するところです。ぜひこのイノシシの加工品にできなくて長崎の飼料会社に持っていくというふうな話が出たわけですが、その殺傷されて加工に向かなくて、また猟友会の皆さんから希望があった分はどういう形でそういうふうな飼料会社のほうに持ち込んで処理を進めるような方向というものも検討するべきじゃないかと思っておりますけど、いかがなものでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

これについては、例えば、その業者に持っていくにしても、結局保管をせんといかんわけですね。今現在は加工センターのほうには30分以内で持ち込んでおります。それで解体の後、その不要になった分については冷蔵をして、そして業者のほうにやっておりますので、現場のほうで真っすぐそのときそのとき業者のほうに持っていくのはちょっと無理でございますので、例えば、その保管をする場所とか、あるいはその臭みが出ないようにその冷蔵をする施設とか、そういう問題ございますので、そこら辺についてはもう少し研究をする必要があるというふうに考えます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひこのイノシシを処分し、適正なる規模に持っていくためにはどうしてもこの問題は大事な問題だと思っております。ぜひ前向きに検討されて、よりよい処理の方法ができて、安心して箱わな、いろんなわなでの捕獲というものに市民の皆さんが努力するような環境整備というものをよろしくお願いします。

次に、畜産業者では農協ですけど、農協だけでもありませんけれども、畜魂碑を建てて犠牲になった牛、豚、鶏の魂にお礼をする儀式をやり、それに携わった人の安らぎを祈ったものです。私はこのイノシシに対しても同様のことをして、この仕事に携わった人が安心・安全に働くような雰囲気をつくることも大事でないかと思っております。その点、朝日町繁昌には、江戸時代天明6年、1786年と刻まれておりますが、捕獲した鳥獣の霊を慰め、その成仏を願って法要を行い建てられた塔、猪鹿塔というものが繁昌の権現山中腹にあります。ぜひこれらの施設あたりも利用されてもいいですけど、畜魂碑ならぬこの有害鳥獣の慰霊をして、そこで働く方の気持ちの整理でもしてもらえれば、もっとだれでも頑張って働くことが

できるんじゃないかなということを考えるわけですけど、その点どう思われるのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

今現在、家畜塔についてはＪＡ等を中心に畜魂祭といいますが、そういうのがあっております。イノシシはまずございませんが、市が主催するのはちょっと無理と思いますので、そこら辺については、例えば、協議会とか、そういうところで検討はしてみたいというふうに考えます。

議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

９番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ検討されて、なかなか畜生というものを殺すというものはつらい仕事です。そんな方が気持ちだけでも慰めるような環境整備というものもしてもらうことも大事じゃないかと思っております。ぜひ検討されて前向きにされることをお願いします。

次に、３月の議会で山口昌宏議員が問題視されました林道用水路、農業ため池、いわゆる堤の被害状況と対策等が質問されました。その後、この山の被害に対して庁内で検討されたかどうかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

イノシシの被害につきましては、農林課のほうにも相談がっております。例えば、４月、５月に、いのしし課ができて、地元から例えば、ため池、それから農道、それから水路、そういう被害の報告もっております。そういうことで、これについては天災でございますので、災害復旧にはなりませんけれども、その復旧については農地・水・環境保全対策と、あるいは市の単独事業の補助、そういうことで対応をしてきたいというふうに考えます。

それから、当然今パトロール隊がございますので、そういう被害の調査はそこら辺についてもやっていきたいというふうに考えます。

議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

９番（山口良広君）〔登壇〕

結局、イノシシ被害はもう天災ではなく、イノシシ災害になってしまうわけですかね。結局、あれが農地・水・環境でやれと言われても、ほかに農地・水・環境というものは使い道が山つきではたくさんあるわけです。それと同時に、山つきではどうしても水田やら畑が少

なく、それに対処するお金も少ないわけです。ぜひこれはほかの事業あたりで対策が出ないと、もう棚田にしても道路にしても何にしても被害が大きいわけです。

山が荒れています。このイノシシというものは、水が出るところをほじくるわけでもね。それと同時に、山は木が今断然切られないわけです。浅木1つにしても一緒ですけど、切られません。上は大きくて下は根が張らずに、風やら大きな台風、大雨が来たときに地すべりしたり、倒木したりと大きな災害につながるわけです。この点が今から大きな問題になるんじゃないかなと思っています。それに加えて、地球の温暖化の中で、今梅雨に入ったということになったんですけど、空梅雨です。いつ降るかわかりません。しかし、いざ雨が降ると、どさっとゲリラ的な雨が降ります。それらを考えると、とても大きな災害が起きるんじゃないかなと思っているわけです。それを今この農地・水・環境保全向上対策事業ぐらいでちょちょこしたことでしていっちょきなさいじゃ、なかなか追いつかないというのが現状だと思いますけど、それを一番危惧します。ここでお尋ねです。

昭和42年や平成2年ごろの大雨が降ったとしたら、今の山の状態ではどんな被害が出るかと思うと心配です。その点、市長、危機管理責任者としてどう思われるのかお尋ねします。その前に昭和42年、平成2年ごろの総雨量と武雄市の被害状況というものをお尋ねしたいと思います。その次に市長お願いします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お尋ねの昭和42年の災害の状況でございますけれども、その当時ちょうど夏の7月8日、9日の総雨量が273ミリございまして、被害額はこれは旧武雄市の分のデータでございますが、約15億円の被害です。それから、平成2年が、これが総雨量が590ミリ、これについては6月28日から7月3日、四、五日ぐらいの総雨量です。そのときの被害額は、これは武雄、山内、北方含めまして、約127億円の被害が出ているという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

確かに林道等を歩いていると、その山が大分弱っているなというのは思います。それは異常気象のせいと、議員が常々御指摘されているそのイノシシの関係で、山が本当に弱っているなというふうに思っていますので、これについては、イノシシ被害対策とその山林の荒廃を復旧させると、保全するという施策を組み合わせる必要があるだろうというふうに思っています。

それに加えてやはり私が一番心配しているのは、その水の問題で言うとやっぱり六角川にあります。たちどころにこう、私が着任してからでも5回も浸水をしているということから

して、やはり、ちょっと質問の趣旨とずれますけれども、六角川をきちんとする必要があるだろうというふうに思っております。今、大坪採石場の採石場ですね、あそこが簡易的緊急避難的な貯水池、ダム、この水量は矢筈ダムの3倍弱あるぐらいの巨大な規模であります。これは議会の特別委員会でも皆様方も御視察いただきましたけれども、力を合わせて国土交通省に話をする必要があるだろうというふうに思っております。幸いなことに国交省からは前向きな回答をいただいておりますので、そういう幾つものその山林対策と治水対策とさまざまなことを組み合わせた上でその治水対策をしていく必要がある。

それと市民の皆さんたちにぜひお願いがあるのは、正確な情報をやっぱり早く知っていただきたいと、我々も防災無線等できちんとやるつもりでいますけれども、やはりもう水かさが一気にふえます。古賀副市長の南上滝も昔はすぐつかりよかったですもんね。あんときのスピードは、私も小学生やったけんがようわかりますけれども、本当1分、2分でもうどんどんどんどん高くなっているというのを子どもながらに体験した記憶があると。早くその情報を察知して、早く避難をするということもあわせて呼びかけていきたいというふうに思っております。いずれにいたしましても議員の御指摘を踏まえてしっかりとした対応をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、くしくも六角川の大坪採石場のことが、今武雄では大きく市長が一生懸命しているよということを東川登の先輩議員さんに話したことがありました。以前から武雄の悲願やって、これをやりよるとは大した男だということをおっしゃっております。ぜひ前向きに検討されて、この六角川周辺の住民が安心できるように頑張ってもらうことを期待しています。

では、山の問題ですけど、私はこの山の対策にはぜひ佐賀県森林環境税というものがあるわけです。これをこの対策にどがんかして使われんやろうかにかということをおっしゃるわけです。この佐賀県森林環境税の目的は何か、そして県内でどれぐらい納税され、また武雄市内ではどれぐらい納税があるのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お尋ねの森林環境税ですが、これについては県のほうが昨年の4月にスタートされまして、まずは目的ですけども、これについては県民を初め、県市町が力を合わせて荒廃森林の再生を図るというのがまずございます。そういうことで県民協働で多様な森林づくりを進めると、それから安全・安心な県民生活を重視して環境優先の視点に立って荒廃した森林の再生を取り組み、森林の持つさまざまな公的機能、そこら辺を十分に発揮させると、これが目的

でございます、それから税額でございますが、佐賀県全体でいきますと1億5,886万1,000円、これは22年度の実績です。それから、地元の武雄市では総額で954万8,000円で、そのうちに個人の分が約900万円、それから法人の分が53万円程度という数字でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

この森林環境税の県内での取り組みはどうか、またもし市内でこの環境税というものを取り組んだ事例でもあったら御紹介ください。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

今、県のほうが考えているメニューが三、四つございまして、まず1点目に、荒廃した森林の再生事業がございます。これについては環境林の中で荒廃した人工林を針葉樹、広葉樹の混交林に誘導していくということで、市内では神六山が対象になりまして、20年度から事業をしております。事業費が約570万円程度でございます。

それから2点目に、重要森林公有化支援事業、これについては武雄市についてはまだ未実施ですが、これについては荒廃した森林、これについて市、町で公有林化をしていくという事業でございます。

それから3点目に、県民参加の森林づくり事業、これについては荒廃森林の再生につながる森林づくりの活動を支援するというので、これについては市内で多々良地区のほうで今取り組みをされております。事業費が127万円程度でございます。

それからもう1点、未来へつなぐ宝の森、宝の森林整備事業、これについては県を代表するような自然の環境の維持、復元、これについては市内での事業はございません。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、市内の山林が荒れているということを訴えたわけです。そんな中で、国有林、県有林、市有林、区有林、私有林といろいろあるわけです。この中で今一番この災害とかいろんなものに直面するような森林というものはどれを考えておられるのでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

今市内の森林の面積が約1万ヘクタールございます。そのうちにほとんどが民有林でござ

いまして、国有林が約100ヘクタール、それから県有林はございません。それから私有林が約3%の324ヘクタール、あと残りの96%が民有林、これは区の山とかそういうのを含まますが、96%が民有林ということで、この民有林のほうの手入れがなかなかできなくて、その荒廃が進んでいるという状況だと思います。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、この96%の民有林、すなわち地区の区有林、私有林ということです。現在、区有林を管理といいますと、その地域の方がいろんな道具を持って登るわけです。そんな中で出不足金が発生したり、なぜ出ないといけないのかというようないろんな問題が出て苦慮しているのが、その山を持っている地区の区長さんじゃないかと思っています。そんなときに、ぜひこの森林環境税というものをこの山の保全対策という意味から使う道というものを考えてもらえれば、それで100%可能ではありませんけど、こういう金もあるけんが、一応山にでも登って手入れはしゅうかというような雰囲気づくりにもなるんじゃないかなと思うわけです。ぜひ前向きに検討されてもらいたいわけですけど、どういうものでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ぜひ前向きに検討いたします。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

そんな中で区有林の問題ですけど、ちょっとここんたい地縁団体ということで今言われております。私の地域も神宮村右工門という固有名詞で山の所有権が守られているわけです。それが今地縁団体ということで、その地域の縁のあるような団体というものは、どういうわけだかわかりませんが、固有名詞でその地区の有林にして、その地域全体でその山を守りましょうというふうなことがこの役員あたりの中で時々話が出るわけですけど、この地縁団体制度というものがどういうもので、メリット、デメリットがどんなものがあるかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

この設立は国にいたときにもかかわってましたので、非常に実は愛着があります。認可地縁団体の組織数は、今武雄市の中で31団体であります。

メリット、デメリットで整理して申し上げますと、まずメリットは、団体名義で不動産登記ができる。今まで、ともすれば山林はばらばら登記で、それがだれが登記をされたか、いつ登記したかというのはわからなかったのが、団体名義で不動産登記ができるというのがメリットの1つにあります。

デメリットはそういった形で法人格を取得することにより、法人市民税、法人県民税の課税対象になってしまうというデメリットがあります。そして代表者、事務所等に変更があった場合は届け出が必要であるということで、割とお金もかかるし面倒くさいということがデメリットであります。市としては、次聞かれるかもしれませんが、我々としてはその特別の指導は特に行っておりません。ただ区長さん等から認可地縁団体設立のための説明会を開いてくれという要望もありますので、そういった説明会の依頼があれば地域に出向いて、先ほど申し上げたメリット、デメリットを詳細にわたって説明をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ山の所有権というものを確定して、山の手入れができるようにしてもらいたいと思います。

そこで最後になりますが、これからは私からの提案です。それは、イノシシ対策としてレモングラスの活用はぜひしてくれということです。さきの一般質問ではレモングラス畑の近くに住んでおられる大河内議員は、レモングラス畑にイノシシが入っていると言われました。私は現場に行って、確認したところ、その横の水路までは来ていますが、中までは入っておりません。カエルやケラなど、時には蛇などをとりに来ています。

また、古川議員もいつもイノシシから被害に遭う水田の周りにレモングラスを植えておられます。そこも被害がありませんでした。

しかし、若木の川内で栽培されているレモングラス畑20枚近くのうち2枚ぐらいは被害を受けました。いろいろ調べてみると、レモングラスを切ることにより、その切り口から出るにおいにイノシシは敏感で寄りつきにくいということが言われています。聞くところによると、まだ植えつけ可能な苗があるそうです。市内何カ所か100本単位ぐらいで植えつけられ、発生しやすい場所を中心に植えてもらい、それを含めて電気さく、ワイヤーメッシュなど、いろんなイノシシの防除対策が施されております。幸いにも武雄市には、いのしし課があり、いのしし課直属のイノシシ隊の皆さんもおられますので、ぜひそれらの記録をとってもらい、将来どんな方法でイノシシ対策をやったらいいかなということを検討してもらいたいことをお願いして私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。